（様式１）

令和２年度　学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立横川小学校
校長名	川嵜　貞昭

１　本校の学力に関する状況

（１）墨田区学習状況調査結果から（平均正答率は、別表参照）

成　　果	課　　題
・２・３・４・６年の各教科の平均正答率は全国値を上回り、特に、４年と６年は、墨田区の平均正答率よりも上回っている。 ・同一集団の経年比較では、３年が昨年度、全国平均より下回っていたが、３ポイント程度上昇し、平均以上となった。他の学年は、昨年度と同等程度の学力を維持し、Ａ層がやや増えた。 ・国語においては、全体でＡＢ層が 65％と多く、２年と４年は 70％以上である。最後の問題の作文でも、正答率が高く、昨年度より自分の考えをしっかりと書ける児童が多くみられた。	・５年は、どの教科も目標値と同等程度であるが、理科は、全国平均より、２ポイント下回り、記述の解答の正答率が低いとともに無回答率も 17％あまりと多く見られた。 ・教科別でみても、理科のＡ層が少なく、表現力が弱い。観察・実験の結果から、考察を書き、自分の考えをまとめられるようにする。 ・全学年で、問題の後半につれて、無回答率が増え、時間内に問題が終わらない傾向が見られる。特に、後半に多い、算数で考え方を説明する問題の正答率が低い。時間配分を考え、じっくりと解ける時間を確保できるようにする。

（２）意識調査結果から

成　　果	課　　題
・自己肯定感が全体的に高いが、自己肯定感が高い児童ほど、学力も高い傾向がみられる。 ・話合いをするとき、自分の意見を積極的に発言している児童は半数以上いる。 ・考えたり頭を使ったりすることは楽しいと感じている児童が多い。 ・学校で学んだことは、将来、社会に出たときに役立つと考えている児童が多い。	・宿題はしているが、授業の予習・復習はあまりしていない。 ・授業以外の一日の勉強時間が全国と比べ少ない傾向がある。土・日・祝日はほとんどしていない。 ・難しい問題に挑戦することはあまり好まない。

（３）墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成　　果	課　　題
・振り返り週間や長期休業明け年２回「漢字コンテスト」「計算コンテスト」の実施により、くり返し学習する習慣と基礎・基本の内容が定着した。 ・授業の始めや、朝学習でのふり返りシートやベーシックドリルの活用により、短時間集中して取り組む姿勢ができた。	・習熟度に応じて、どこでつまずいているかを個別に把握し、発達段階に即して、系統的に学習を進めていくステップ学習と発展的な学習が学年を超えて進められていない。 ・放課後学習は人材と時間の確保が難しく、週１回の実施も厳しい現状である。

２　本年度の学力向上に関する主な取組

（１）基礎・基本の定着

・授業の開始時に本時の学習課題を明確にし、児童の学習意欲の向上を図り、終わりにはまとめと振り返りをして、学習内容を確実に身に付けさせる。

・「横川スタンダード」「横川っ子のやくそく」で示した学習規律（授業の始めと終わりにあいさつ、チャイムで着席、姿勢を正して座る、授業道具をそろえる、話を最後までよく聞く、粘り強く取り組む）の維持徹底を図る。

・算数では、少人数指導で習熟度に応じた指導を行い、どの児童にも「わかった」「できた」「身に付いた」という達成感や充実感をもたせるよう、授業内容を工夫する。

・東京ベーシックドリル等を活用して、児童がつまずいている所を点検し、朝学習や放課後学習で個別に学習指導を繰り返し行っていく。

・児童の興味・関心を引き出したり、理解を深めたりするために、エバンジェリストを中心にＩＣＴ機器を効果的に活用した授業を進める。

・「漢字コンテスト」「計算コンテスト」を年２回に実施し、学習意欲と学力の定着・向上を図る。

（２）読む力と書く力を伸ばし、思考力・判断力・表現力の育成

・「主体的に考え、学び合う児童を育てる指導法の工夫」を研究主題とし、国語科、社会科、算数科の３つの分科会で研究授業を行い、教員の指導力向上を目指すともに、校内研究の充実を図る。

・社会科や理科では、体験学習を踏まえてイメージ豊かに想像し、論理的に思考して表現する力、書く力などの言葉の力を育成し、知識・理解を深めていく。

・すみだ教育研究所ニュースから、社会科や理科指導に関する内容や組織的な学力向上の具体的な取組方法等に関する内容を参考にして、授業改善に取り組む。

・対話を意識的に取り入れ、互いに学び合う学級集団を作る。思考の流れが分かるノートの取り方の指導を工夫する。

・朝読書の実施と共に学校図書館司書やボランティアを活用して図書室や学級文庫の整備を行い、読書活動をさらに充実させ、読書好きの児童の育成や読書習慣の形成を図る。

（３）家庭との連携を図った学習習慣の確立

・学習指導の一貫として、全学級で適切な宿題や課題を継続して出し、家庭での学習習慣を付けさせる。

・「横川スタンダード」「横川っ子のやくそく」を再度家庭に示し、児童の学習習慣を確立していくために個人面談や学年だより等で家庭に協力を願っていく。

３　「令和３年度　墨田区学習状況調査」における目標

・各学年Ｂ層からＡ層へ５％増加させ、ＤＥ層を２０％程度に減少させる。

・平均正答率を５ポイント以上、上回り、今年度より同一集団の成長をさらに伸ばしていく。

・６年の学習意欲の向上と学習内容の理解と定着により、目標値を上回る集団へと変容させる。